

村上春樹「海辺のカフカ 上巻」～「2000字感想文」望月勇輝～

僕が今回読み終わって感じたことは、(どのように表現したら正しく表現できるかわかりませんが)『海辺のカフカ』は“親”のような本だと感じました。大まかに本の内容を説明すると、主人公は15歳の家出少年で、思春期ど真ん中の少年。その少年が家出をし、旅をし、さまざまな人に出会い、日々過ごしていく中でいろいろなことが彼に降りかかってくる物語です。さらにその少年とほかに、第二次世界大戦中(当時疎開していた小学生)に不思議な体験をしたというナカタという人物が登場し、別の時間軸で物語が同時に進んでいきます。

僕が読んで特に感じたこと・印象に残ったことは、15歳の少年の言葉ひとつひとつが、今の自分に当てはめられるというか自分の考えていることが描写されているというか、僕の日々の何気ない生活の中で感じたこと・考えていること、本の登場人物が発した言葉に対しての感情、僕の思っていることが表現されている(まるで心の中をみられている)ように感じました。その感情に対し、少年のまわりの人が「人生ってこういうものじゃないのか」と少年に問いかけつつ、読み手にもヒントを出すみたいに、優しく、ときには現実を教えてくれているように感じました。まさに“親”のような本だなと感じました。

そして、“親”のように接してくれるときもあれば、友達のように優しく寄り添うように励ましてくれる。まるで、自分がこの本の主人公(15歳の少年)であるかのように物語の中に引き込まれてしまいました。村上春樹さんの文章は、何とも言葉で言い表せないような美しさだったり、深さであったり、優しさであったり、様々なものを含んでいて、しかも複雑ではなく、誰でも理解できる言葉使いで、僕はここまで文章や本に引き込まれたことはありませんでした。いままで本をあまり読んでこなかった僕には、とても衝撃的でした。ここまで人を惹きつける文章をかける人がいるのかと、それは驚きという言葉で言い表せないものでした。

村上春樹さんの文章をどのように表現したらいいのかと考えていますが、うまく表現することができません。村上春樹さんのすごさや面白さは、読んでいただくことが一番伝わると思います。まだ読んでいない方は是非ご一読ください。(読んでことがある・知っている方もいらっしゃると思いますが)

今、ここまで感想文を書いていて、感じることは、なんでもっと早く読んでいなかったのだろうかということです。実は、この『海辺のカフカ』を塾長(石川先生)に紹介してもらったのは、今から約八か月前でした。僕は久しく読書をしていなかったのも、何度か読んでみようと思いましたが、なかなか読むことができませんでした。若干は読んでいたものの、ほとんど読んでいませんでした。もし、もっと早く読み終わってれば、村上春樹という偉大な小説家のことをもっと早く・詳しく知れたであろうし、他にも読めていた・もっと自分の見える世界が広がっていたのだらうなと思うと、後悔しています。やはり、その時、その時にやるべきことをやらないと後悔してしまうのだなと改めて、身をもって体感しました。

少し話が脱線してしまいましたが、僕はこの『海辺のカフカ』に出会えて本当に良かったです。(下巻はまだ読み終わっていませんので、下巻を読むのが楽しみです。上巻だけでも、物語の展開が一転二転して面白かったです。)

僕がなんとなく漠然と考えていた「人間って何のために生きているのかだったり、将来自分はどうなるんだろう、日本はどうなるんだろう」という不安・疑問を抱いていたさなかに、この本に出会い、ヒントを得ることができました。時間はかなりかかって読み終わることになってしまいましたが、先生に紹介してもらえて、またヒントを得ることができて本当に良かったです。

これまで、僕は読書をするのがあまり好きではなく、本を読む習慣もなかったのですが、今回『海辺のカフカ』を読み、こうして自分の人生に役立つ本・文章・言葉に出会えたことで、先生が常々おっしゃっている「読書は自分の世界を広げてくれる・知らない世界を知ることができる」という言葉の意味が少しずつですが、分かってきました。

今回、こうして素晴らしい著者・本に出会うことができたので、読書を好きになって、習慣もつけることができるように、また、さらに村上春樹さんの本・また他にも読み進めていけたらいいなと思いました。これからの自分・未来の自分を助けてくれるような本を、たくさん、いろいろなジャンルを読んでいきたいなと思いました。本を通してさらに自分自身を成長させていけるようにしていきたいなと思います。

(2025年度)算数・数学検定(石川塾開催 1年度4回:土曜の午後を予定)

- ・第1回:2025/06/07(土)／申込〆切:05/08(木)
- ・第2回:2025/09/20(土)／申込〆切:08/19(火)
- ・第3回:2026/12/06(土)／申込〆切:11/05(水)
- ・第4回:2026/03/07(土)／申込〆切:02/03(火)

・目安(各級の程度):(算数検定)11級(小1)/10級(小2)/9級(小3)/8級(小4)/7級(小5)/6級(小6)/(数学検定)5級(中1)/4級(中2)/3級(中3)/準2級(高1)/2級(高2)/準1級(高3)/1級(大学・一般)

・お申込みお問合わせは石川塾まで TEL:042-710-5768 読み書き算数石川塾

村上春樹「海辺のカフカ 下巻」～「2000字感想文」望月勇輝～

前回、上巻についての感想文(感想文といえるのか分かりませんが)を書きました。今回も下巻を読んで感じたことを自分なりにまとめてみたいと思います。前回にも書いたのですが、さまざまなことを読み取ることができて(むしろ読み取らせられているという感じ)、それを一言であるいは分かりやすく、まとめることはできないと感じました。自分の思ったことを伝えられるように少しずつ触れていきたいと思います。まず一つ目は、上巻と比べて下巻は、私たちが生きている現実世界の描写とは異なった、抽象的な世界というか物語の世界を中心に物語が進んでいたと感じました。ただ、その物語的(抽象的)な世界の中に、現実世界を生きるヒントというか、方法というべきかが散りばめられていました。上巻とはまた違った印象というか、感触を感じました。ただ、抽象的だから読みにくい、分かりにくいということではなく、ただ物語が抽象的な印象だなという程度でした。上巻同様、それ以上に面白かったです。ただ面白いというだけではなく、読者を考えさせ、参加できるような作品だと思います。

二つ目に、物語の終わりに歯がゆさという、さまざまな疑問を抱いたまま、終わってしまったなと思いました。この物語の終わり方というのは、いくつかの疑問点、物語の内容に触れずに終わるのです。例えば、ナカタさんはなぜ言葉の読み書きをすることができなくなってしまったのかについて、カフカ少年は、なぜ父をあんなにも憎んでいたのか、カフカは東京に戻りその後どのように過ごしているのか、などなどさまざまな疑問点を残したまま、終わりました。そのため、あまりはっきりとは完結しなかったなという印象でした。ただ、そこに著者・村上春樹さんの狙いがあったのではないかと感じました。というのも、この『海辺のカフカ』では、上巻から一貫して、読者に考えさせるということを重要視しているのではないかと感じたのです。物語が、二人の主人公の話が同時に進んでいく際に、次の話の道しるべ、伏線を張っているというか、それを意識させつつも、予想外の展開にもっていきたり、その伏線を回収したりと、読み手に様々なことを考えさせ、その想定を上回る話が多く、そのため非常に面白く、深い物語であるという印象をもちました。また、その主人公や他の人物のセリフ・発言が、多義的に使われている言葉・文章が多く、著者村上さんの考え・価値観を含みつつも、読者の共感を得るようなものであり、物語を進めるキーワードになるという非常に高度な文章でありながらも、誰にでも理解でき、分かりやすさと深さを含むという文章でした。そのため、考えて物語を楽しむ・理解することによって、物語へ更に理解できたり、違った印象をもったり、その考えるという行動によって、物語からわれわれの生きる現実世界でのヒントを得ることができる(そのように設計された)のではないかと思います。

三つ目に、本はやはり見える世界を広げてくれると感じました。この『海辺のカフカ』を読み終わって、夏服が欲しいなと思って、ユニクロのサイトを見ていたら、ユニクロと村上春樹さんがコラボした、Tシャツが売っていて、これには驚きました。今までの僕であれば、そもそも村上春樹という人がどのような人であったか、それさえ分かっていませんでした。物語を通して知ることができたというのは、僕にとって大切なことであったように感じます。また、本屋に行ったときに、村上春樹さんの新刊が店の前で売っていたり、偶然かもしれませんが、不思議な感じがしました。「読書は見える世界・視野を広げてくれる」ということは、著者のことを知ることによって広がる、物語を知ることによって広がる、知識を得ることによって広がる、文章・言葉使いを知ることによって広がる、といったさまざまなものを得ることができるのだと感じました。

今回、「海辺のカフカ」を通して、さまざまなことを得ることができました。言葉使いだったり、物語の一節の表現だったり、知識、など、非常に世界が広がった、一番は、物事への考え方の幅が広がったのではないかと思います。カフカ少年だったら、大島さんだったら、佐伯さんだったら、ホシノさんだったら、ナカタさんだったらと置き換えて考えたり、カフカ的な思考になりきって考えたり、物事を前向きにまた、より客観的に、物事を考えることが多くなったような気がします。カフカを通して、深みのある思考というか考え方を知ることができたような気がします。

カフカのような長編の小説をまともに読んだことはこれまでありませんでした。そのため、すべてが新鮮だったというか、文章・言葉ひとつで、読者に情景を浮かばせる・伝えるというのは改めてすごいなと感じました。僕の中の小説の可能性だったり、凄み、楽しさというものを教えてくれました。そういった意味では、初めてしっかりと読んだ小説が村上春樹さんという人物が書いた「海辺のカフカ」でよかったなと思いました。村上春樹さんを知れたということは非常に大きいことであると感じます。

(2025年度)算数・数学検定(石川塾開催 1年度4回:土曜の午後を予定)

- ・第1回:2025/06/07(土)／(延期)
- ・第2回:2025/09/20(土)／申込×切:08/19(火)
- ・第3回:2025/12/06(土)／申込×切:11/05(水)
- ・第4回:2026/03/07(土)／申込×切:02/03(火)
- ・目安(各級の程度):(算数検定)11級(小1)/10級(小2)/9級(小3)/8級(小4)/7級(小5)/6級(小6)
- (数学検定)5級(中1)/4級(中2)/3級(中3)/準2級(高1)/2級(高2)/準1級(高3)/1級(大学・一般)